

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190201085		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア川口新郷グループホーム		
所在地	埼玉県川口市東本郷1427-1		
自己評価作成日	令和5年2月16日	評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702		
訪問調査日	令和5年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内の居室では介護ベット・クローゼット・タンス・エアコン・防災カーテン・ナースコール設備しております。
 安心した生活をしていただくために、提携医療機関と24時間オンコールで繋がるようになっております。
 施設の生活では食事・洗濯・掃除など自宅と変わらない生活を送っていただけるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、日暮里舎人ライナー「見沼代親水公園」駅より徒歩20分程にある、鉄骨造2階建て2ユニット定員18名の開設2年目のグループホームである。周りは閑静な住宅街でのどかな環境である。入居者が安心した生活をしていただけるよう、提携医療機関と24時間オンコールで繋がっている。「笑顔」と「こころ」「いつでも人が真ん中を」を理念に掲げ、入居者が自宅と変わらない生活を送っていただけるよう、全職員の意識を高めている。また、毎日笑顔で過ごせるようなアットホームな雰囲気づくりや、入居者の事を中心に考えた柔軟なケアに取り組んでいる。職員同士のコミュニケーションもよく、働きやすい環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先にポスターを掲示している。	理念を玄関や休憩室に掲示し、いつでも確認出来るようにしている。毎月の全体会議で振り返り、意識の共有を図って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により外部の訪問を控えて頂いている。 拠点周りを散歩した際の挨拶などの交流をしている。	コロナ禍のため、外部との関わりを控えており、地域との連携が図れていない状況にある。	地域から受け入れられ、地域活動や近隣の人たちと関わりが持てるよう、働きかけが望まれる。コロナ収束後は地域住民の一員として接点を持てるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様へ認知症の説明等を行っている。 地域に向けての発信は出来ておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催となっている。 拠点での生活を説明し、ご意見などを受けサービス向上に繋げている。	運営推進会議はコロナのため、集合形式での開催はしていないが、奇数月にホームの活動状況を書面にて市役所、包括支援センターに報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所から定期的にメールで案内などを頂いている状況です。 拠点からは事故の報告や生活保護者の申請関係など円滑に進められている。	市役所から定期的にメールで案内をいただいております。事故報告や生活保護者の申請関係等、電話やメール等で連携に努め、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に行い、内容の周知を行っている。 3原則やスピーチロックなどを書面にて周知もしている。	3ヶ月に一度、身体拘束委員会を開催して拘束や虐待について話し合い、拘束による弊害やリスク等を理解して意識の共有を図っている。スピーチロックの研修を行い、書面にて周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修にて高齢者虐待に関して学ぶ機会があり、日々の業務内では入浴やトイレ介助などで痣の有無を確認している。 少しの変化でも報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方はいませんが、制度の内容など今後の研修で加えていく予定をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明をご家族様と確認を行い、都度不明点などをお聞きしながら進行し、わかりやすい説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご入居者様からの要望などは会議などで検討を行い、運営に反映できるよう努めている。	家族に向け、毎月カラー写真付きの「月便り」を送付し、普段の様子が見えるようにしている。面会時等には積極的に声かけをし、何でも言っていたけような雰囲気作りに心がけている。また、法人本部によるアンケートを実施し意見、要望等を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、意見や要望などを聞けるようにしている。 また、個人で伝えてもらえるよう雰囲気作りなども心がけている。	全体会議やユニット会議で職員の意見、要望を聞いている。年2回、個人面談を実施し、施設長は日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、話しやすい雰囲気づくりに留意している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の業務内容・勤務状況などの把握を行い、上長に報告を行っている。 社内資格制度などの周知も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修や社内資格制度のe-ラーニングなどを活用し、ケアの質の向上できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設に連絡し、訪問などを行っており、サービスの質を向上できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者様の思いをお聞きできるように、気持ちに寄り添いながら関係性を作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや願いをお聞きし、サービスに活かせるように努めている。 また、ご入居者様に対して何事も相談できるような関係性を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に情報収集を行い、今必要な支援をお聞きし、提供できるよう努めている。 ご家族様とご入居者様どちらにも安心していただけるよう支援させていただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の動作を一緒にしていただけるよう支援している。 ご入居者様の出来る範囲で手伝っていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を制限しているため、電話にてご様子の報告をさせていただいている。 ご入居者様を支援していただけるような関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会での制限はさせていただいているが、電話などをご入居者様に繋げられるよう案内をし、関係が途切れないよう努めている。	日頃の関わりの中で本人や家族から話を聞き、馴染みの人や場所の把握に努めている。 コロナ禍のため現在は電話対応のみとなっているが、家族との面会は事前に連絡をいただき、短時間での対応を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングなどの共有場所では職員が配慮し、孤立しないよう介入し、関り合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へのお見舞いや電話連絡などを行い、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅での生活や希望の生活に近づけるように可能な限り支援させていただいています。	日々の関わりより、本人の言葉や表情等から思いや意向の把握に努めている。家族と相談し、協力をいただきながら、どのように暮らすことが最良なのかを日々検討している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴をお聞きし、サービス利用されていたところへ情報収集などを行って把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報をもとに、生活の中でご本人様の心身状態の把握に努め、共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様とご家族様の意向をケアプランに反映し、課題などは施設で検討を行い、ご家族様とご本人様に提案をしケアプラン作成を行っている。	本人や家族の意向を伺い、全職員で意見交換をした上で計画を作成している。状況変化の都度、話し合いを行い、現状に即した計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記録し、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度会議を開き、検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報収集を行い、提供できる支援をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診で診察を受けている。 夜間や緊急時などもかかりつけ医が臨時往診していただき、指示を仰ぐ体制になっている。	入居前からのかかりつけ医の受診が可能であり、通院は家族対応となっているが、状況により職員が対応することもある。協力医の往診が月2回、歯科は週1回となっている。提携医療機関と24時間オンコールで繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に情報を伝え、指示を仰ぐ体制になっている。 また、かかりつけ医に伝えられるよう日誌に記入させていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への連絡等で必要な情報をお聞きし、早急に伝えられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご説明を行い、署名頂いています。 施設で出来る限りの支援をさせていただく。	入居契約時に重度化や終末期の在り方について、ホームで対応し得るケアについて十分な説明を行い、署名をいただいている。状態変化の都度、意向を確認し、職員、医師が密に連絡を取り合いながら方針を共有し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、提出している。 また、職員・入居者様全体で避難できるよう訓練も実施している。	9月に各職員に避難訓練の手引書、QRコードを読み込んでもらい、各自に確認している。 3月に消防に届け出をし、訓練をする予定である。水、食料、簡易トイレの備蓄をしている。	万が一の災害に備え、地域の協力が得られるよう、呼びかけ等を工夫し、地域住民参加の夜間想定を含めた年2回の訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居様の人格を尊重し、声掛けや関わりを持っている。 生活意欲の向上を心がけている。	プライバシーや接遇について話し合いを行い、意識の共有を図り、人生の先輩として敬う心を持って対応している。一人ひとりの人格を尊重し、日々の関わりから周りに配慮した言葉かけや対応ができるよう、定例の全体会議やユニット会議で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で実現したいことなどを受け取れる会話があり、実現可能な範囲でご家族様に協力を得ながら自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務が優先にならないよう、ご入居者様と接することが出来る時間配分を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや趣味を尊重し、訪問理美容や整髪に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自宅での生活と変わらないよう、出来る方には配膳や下膳を手伝っていただき、お茶入れなどもしていただいている。	専門業者から食材を仕入れ、職員が調理し、個々に合った食事形態で提供している。おやつ作りや行事食などを楽しんでいる。下膳や食器拭きなど、個々の出来る力を発揮していただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用し、栄養士が作成した献立を元に、バランスの良い食事を提供している。 また、食事摂取状況に応じた変更対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科が定期的に訪問しており、都度アドバイスや指導をいただき、一人ひとり口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、適切なタイミングで声掛けを行い、おむつ等を使用している方には失敗しないよう介助を行っている。	一人ひとりのタイミングを把握し、時間や仕草からトイレ誘導し、自立した排泄ができるよう支援している。オムツ交換時は、失敗しないよう声かけやタイミングなど、支援方法を全職員で共有し、羞恥心に配慮し、さり気ない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を元に、タイミングを把握し声掛けを行っている。 また、水分強化をし、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基準に入浴して頂いている。 皮膚状況を考慮し、3回に増やし清潔を保つなど、臨機応変に対応している。	週2回、午前中にその日の気分や体調を考慮し、一人ひとりがゆっくり入浴いただけるよう支援している。皮膚の状況で毎日シャワー浴の方もいる。拒む方には無理強いをせず、声かけや時間をずらしたり、対応職員を変える等の工夫をしている。四季を感じていただけるよう、季節のゆず湯などを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人様にお任せしている。 良眠できるように環境の整備を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を理解し、適切な服薬方法にて提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来ることを把握し、手伝っていただいている。 徐々にその方の役割を自身で認識していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響により、買い物などは行けませんが、施設の周りを散歩をしている。	現在はコロナ対応のため、外出を自粛しているが、天気の良い日には近隣を散歩したり、ペランダで外気浴などの気分転換をしていただいている。家族の希望により、感染対策を徹底してお墓参りに行かれたケースもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様とご本人様に確認のもと、金庫にて管理させていただいている。 必要に応じて日用品等を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に添える形で支援させていただいている。 ご本人様が携帯を持っている場合は掛け方など手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に応じたカレンダーの作成を行い、フロアで飾っている。 季節に応じたレクリエーションを取り入れ、入居者様に参加していただいている。	皆で作成した節分の作品や季節毎の壁飾り等で四季を感じられるようにしている。空調に気を配り、室温、湿度を管理し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置や席の配置など、関係性に配慮しながら気を遣わないように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と変わらない環境を目指し、持ち込みをお願いしています。 安心できるよう、ご家族様の写真や馴染みの物を配置している。	今迄の生活スタイルで暮らせるよう、使い慣れたものや思い出のもの、テレビや仏壇、写真等を持ち込んでいただき、自分の家として居心地よく過ごせるように配慮している。室内は毎日職員が清掃し、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや脱衣所などわかりやすく表記し、ご自身でどこに何があるかを把握しやすい環境づくりを行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(2)	コロナ禍のため、地域、外部との関わりを控えている。外出も少なく地域との交流もない。	交流がなかった地域との関わりを事業所が率先して取り組み、コロナ収束後は地域住民の一員として接点を持つ。	事業所として運営推進会議で報告する地域活動への参加	12ヶ月
2	(13)	災害対策としての防災訓練はコロナの影響で各職員に手引書とQRコードを読み込んで各自確認している。	地域の協力を得るため、地域への働きかけ、呼びかけの工夫をする。災害時マニュアルを基に地域の方にも周知してもらい、訓練を行うことを目指す。	地域の状況を把握し、地域住民との連携を図る。交流を深め、年2回の訓練も事業所と地域参加型を計画する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。